

医療における相互信頼を学ぶ

府国保診療施設協議会技術職部会研修会



国保診療施設協議会技術職部会研修会は、2月20日（土）、府国保連合会において府国保診療施設や府市町村保健師協議会等より約30名が集まり開催された。

腰山部会長の開会挨拶のあと、研究発表へ移り、京丹後市立久美浜病院の藤田圭子薬剤師は「当院薬剤部における医療安全への取り組み」、国保京丹波町病院の山内敏行診療放射線技師は「当院における撮影状況について」のテーマで発表した。また公立山城病院の高嶋徹臨床検査科課長は「当院における遠隔病理診断のこれまでの実績と現状」、公立南丹病院の宅間和秀臨床工学技士長は「潰瘍性大腸炎における白血球除去療法と顆粒球除去療法の比較」と題して発表を行った。



おおい町国保名田庄診療所所長であつとほ〜むいきいき館ジェネラルマネージャーである中村伸一氏は、「夢を持てば変えていける地域の医療」と題して講演を行った。へき地医療現場にて、実際に自分が体験し、学んだことを例に挙げながら、地域医療のあり方を説明するとともに、医療全体において患者と医療者の相互信頼の精神が大切であると訴えた。